

(3) アートのまちづくりについて

参考：アートという用語に関する資料

＜広辞苑＞	・アート	芸術、美術 技術
	・芸術	技芸と学術 一定の材料・技術・身体などを駆使して、鑑賞的価値を創造する人間の活動およびその所産。 絵画・彫刻・工芸・建築・詩・音楽・舞踊などの総称

＜参考：京都精華大学オープンコースウェア芸術学講義からの抜粋＞

1.【芸術】 広辞苑の定義

中国語での「芸術」の本来の意味は、様々な技術やそれに関する芸というものと、学術、学問のこと。

一方、西洋における「アート」という言葉は、ラテン語における「アルス」という言葉が語源になっており、本来は「技芸」に近い意味を持っている。

アートの訳語として、「一定の材料・技術・様式を駆使して美的価値を創造、表現しようとする人間の活動、およびその所産。それによってつくられるもの」

造形芸術：彫刻・絵画・建築など

表情芸術：舞踏・舞踊・演劇など

音響芸術：音楽

言語芸術：詩・小説・戯曲など

また、時間芸術と空間芸術、視点に応じて種々に分類される。

芸術は、非常に広い学問、非常に広い実践である。

絵画から音楽から詩までを含む非常に広いものとされ、それらの共通する点というのは、「美的価値というものを創造、表現しようとする人間の活動、及びその所産である」というところ。

2. 一般的/古典的な「芸術」に関する定義

西村清和著「現代アートの哲学」から引用

- ・芸術とは剽窃であってはならない。
- ・つまり、それは誰かある個人が、自分の手でつくったものである。
しかも、過去に既にあるものを模倣したり剽窃したりするのではなく、かれの「独創」によるものでなくてはならない。 オリジナリティ
- ・そのような意味で、芸術とは「創造」なのである。 クリエイティブ
- ・こうして創造された作品は、単なる器具のような有用性に意味がある品物ではなく、とりわけ便器のような卑俗な、さらには不道徳なものであってはならない。作品は、独創において他からくっきりと際立たせられた一個の自立的な存在として、それ自体に固有の意味と価値を持ち、またその価値において、これを鑑賞する者の教養や趣味の陶冶をつうじて、あるべき人間性と道徳を高めるものでなければならぬ。

3. 「art」の用法の歴史 *要約

- ・「アート」は本来の意味から言えば技術という概念が中心
- ・人間の手で行う何らかの作業、技術
(ラテン語では「アルス」、ギリシャ語では「テクネー」)
 - ex. マーシャルアーツ : 格闘技
 - ヒーリング・アート : 医術
 - アート・オブ・ビルディング : 建築術
 - アート・オブ・ウォー : 戦術
 - アーティフィシャル・インテリジェンス : 人口頭脳
- ・実用的なアートから絵を描く、何かを模倣する、自然を模倣するアートの出現
(絵画と大工の技は基本的に同じものとして扱われていた。)
- ・ルネッサンス中期に美しい技術「ファイン・アート」が考えられてくる。
- ・18世紀半ばに、特に絵画・彫刻というものを中心としたものになってくる。
- ・19世紀に入ると、模倣的ではなく、見る人間に影響するようなものであること、高い人格を持つ芸術家が自らの内面を出したようなもので、何かしようとする目的の役に立つものであってはいけないという定義が入ってくる。
- ・芸術そのもののため、それだけで成立する「純粋芸術」と実際に使われる器などを指す「応用芸術」とがあり、応用芸術は一段下に見られていた。
- ・20世紀初頭には、応用芸術の中に美を見出していこうと「デザイン」という概念が新しい領域として出てくる。
- ・1960年代には、感覚的な美というものにこだわらず、見る者にものを考えさせるアート(コンセプチュアルアート)というものが出てくる。

4. 誰が「芸術/アート」を定義するのか *要約

- ・芸術というものが誰によって決められているのかということについての一つの答えが「アートワールド」という概念がある。
- ・「アートワールド」というものは、例えば画廊の人間や評論家、芸術家自身、あるいは芸術ジャーナリズムというような人や制度の集合体だけでなく、世間一般あるいは世間一般の中で特にアートに関わる人たちが発する言葉という、「何が芸術であるかという概念」によって形作られている。
- ・西村清和著の「現代アートの哲学」という本が「芸術」ではなく、「アート」という日本語を使っているのは、日本語の芸術という概念を取り去るために「アート」という言葉を用いている。

アートのまちづくり資料(当市の事例)

中心市街地活性化の一環として実施した、アートに関連付けた取り組み

平成20年度

	月日	名称	内容
1	6月29日	第1回プレ事業 ストリートキャンバスライブ	hpm建設予定地の仮囲いに、画家や書道家による壁面アートを描く
2	7月12日～ 9月17日	仮囲いゲリラガーデニング ゴーヤのカーテン	hpm建設予定地の仮囲いに、ゴーヤのカーテンを創作
3	10月12日	第2回プレ事業 八戸市魚市場公演+さめ味覚まつり 全国巡回ダンスプロジェクト踊りに行くぜ！！	第一魚市場を舞台に一夜限りのダンスパフォーマンスを開催
4	12月19日	第5回プレ事業 公開セミナー 吉本光宏氏 講演会	アートによる街の活性化の研究分析の国内第一人者吉本氏による講演会
5	12月20～ 25日	第6回プレ事業 ワークショップ&インスタレーション 「風のひかりみち」	風によって発電し発光するペットボトルの小さな風車を作成し、三八城公園で展示
6	3月1日	第8回プレ事業 地鎮祭 - Ground Breaking Ceremony -	ダンス、音楽、アイアンアートのイベントを開催
7	3月30日	第10回プレ事業 加藤種男氏講演会	横浜市芸術文化振興財団専務理事の加藤氏が文化による都市再生などについて講演

平成21年度

	月日	名称	内容
1	7月24日～ 8月31日	第12回プレ事業 アサヒアートフェスティバル 「八戸横丁アートプロジェクト 酔っ払いに愛を」	八戸中心街の8つの横丁を舞台にしたアートプロジェクトを開催。ゲリラガーデニング、ヨコラちゃんを探せ!、つついおみや、映画「五番街の出来事」など
2	8月25日	第13回hpm市民ワーキング 山出淳也氏講演会	NPO法人BEPPEU PROJECT代表理事 山出氏が、空き店舗の活用など別府での取り組みを講演
3	10月15日～ 16日	第15回プレ事業 大阪住み開きアートプロジェクト in 八戸	アサヒアートフェスティバル交流支援プログラムの一環として、大阪プロジェクトのディレクターアサダワタル氏を迎え、八戸における交流の場づくりがどのように実践されるべきかなどのテーマを交え、ライブ&トークイベントを開催。
4	1月31日	文化芸術による創造のまちあおもり八戸プログラム	建設中の「はっち」を拠点に展開される文化芸術振興事業や、地域とアートについて等をテーマに、先進地から講師を招き、2部構成で勉強会を開催。

アートのまちづくり資料(他都市の事例1)

他都市のアートに関連付けた取り組み事例

NO.	1	2	3
市町村名	秋田県仙北市	十和田市	田舎館村
事業名	角館アートプロジェクト2009想nic Art 2	開館一周年 チェ・ジョンファOK!	田舎館村の田んぼアート
実施主体	角館アートプロジェクト想nic Art実行委員会	十和田市現代美術館	田舎館村むらおこし推進協議会
実施日	平成21年10月30日(金)～11月3日(火・文化の日)(5日間)	平成21年4月25日(土)・8月23日(日)	5月～10月
開始年	平成20年～	平成21年	平成5年(1993)～
会場	角館の観光の中心から外れた「外町」各所 ・安藤醸造 文庫蔵 ・西宮家 ・HACHIYAギャラリー『VIS』 ・五井酒造店 ・仙北市商工会『かつらぎ』1F ・角館外町交流広場 空店舗 ・佐藤義亮宅跡地 ・旧角館会館 ・上新町一番地空店舗	十和田市現代美術館、商店街ほか複数会場	村役場の東側にある約1.5haの水田
概要	角館を愛する若いアーティストが、「～想いをかたちに～角館をアートであふれる町にしたい」という想いのもと集まり、美術展・音楽ライブ・インスタレーション・ワークショップ・パフォーマンスなどを行ない、角館から世界へアートを発信するアートイベント	十和田市現代美術館開館一周年記念として、常設展示作家の一人である、チェ・ジョンファの個展	青森県南津軽郡田舎館村が村起こしの一つとして、田舎館村役場裏手の田んぼで始められた。田んぼをキャンパスに見立て、現代の米と「古代米」と呼ばれる古代に栽培されていた色の異なる米を使って、巨大な絵を作る。近年では他の地域でも行なわれている。
イベント内容	作品展や音楽ライブをはじめ盛りだくさんの内容 今年のテーマは『みんなでアートイベントを楽しもう!』 見る側、作る側のあらゆるすべての人達に『見る・聞く・交流・育む・体験・夜』のさまざまな楽しみ方で気軽にアートに触れていただきたい ・美術展 Art Exhibition ・ワークショップ ・音楽ライブ Music Exhibition ・「想nic講演会」弘前大学まち育て研究室 ・ギャラリーツアー ・ひまわりプロジェクト ・インスタレーション ・yorusoni～夜ソニ～	・アーティストトーク Artist Talk ・「店印をつくろう!手彫りスタンプワークショップ」OK! Workshop ・OK! まちなかツアー OK! Guided Exhibition Tour ・OK! まちなか展示『店印』スタンプラリー OK! Stamp Lally!! ・OK!展フィナーレ 三本木小唄ナイト in 盆フェスタ SANBONGI KOUTA NIGHT!!	使用される米は古代米2種類(黄稲、紫稲)と、この地方で栽培されているブランド米の「つがるロマン」。村役場に設けられた展望室が開放され、作品を眺めることができる。毎年多くの方が訪れ、平成19年度には24万人が訪れた。また田植えや稲刈りへの参加者も募集しており、多くの方が参加している。 近年の作品モチーフ 平成21年 - 戦国武将、ナポレオン 平成20年 - 恵比寿様、大黒様 平成19年 - 葛飾北斎『富嶽三十六景』の『神奈川沖浪裏』と『凱風快晴(赤富士)』 平成18年 - 俵屋宗達『風神雷神図屏風』 平成17年 - 東洲斎写楽『二代大谷鬼次の奴江戸兵衛』、喜多川歌麿『歌撰恋之部・深く忍恋』

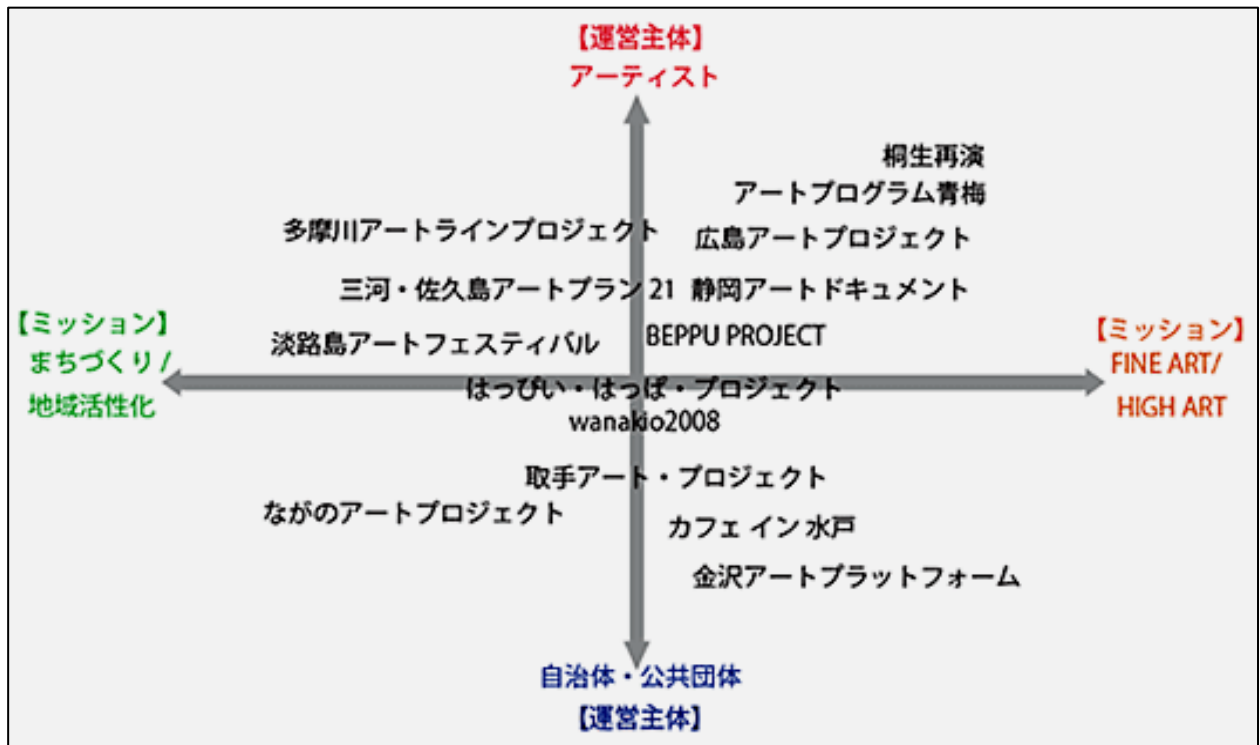
アートのまちづくり資料(他都市の事例2)

国内におけるアートプロジェクト実施事例

主体の性格	プロジェクト	実施年	実施地	実施環境	実施主体	ミッション
アーティスト+地域住民による組織体	アートプログラム青梅	2003年より毎年	青梅市	旧工場施設、試験場のコンバージョン、高等学校講堂の利用	主催:アートプログラム青梅実行委員会 共催:文化庁、青梅市	地域に根ざした芸術文化の自由で豊かな文化環境の創造
	桐生再演	1994年より毎年	桐生市	旧工場施設、旧商店など	桐生森芳工場運営委員会 後援:桐生市	近代工業の跡地を舞台に行なう美術展の開催
	広島アートプロジェクト	2007年より実施	広島市	旧工場施設、旧銀行施設(被爆建造物)	広島アートプロジェクト実行委員会	現代美術を中心とした文化芸術の振興に関する事業等で文化芸術の振興、国際平和の実現、および共生社会の推進に寄与する
	静岡アートドキュメント	2007年より実施	静岡市	公園、店舗、神社、廃屋(プラネタリウムドーム)など	静岡アートドキュメント実行委員会	静岡に生活する人々とアーティストと学生がコミュニケーションをとりながら、その都市環境を作品化する
キュレーター、コーディネーター+住民による組織体	金沢アートプラットホーム2008 ・自分たちの生きる場所を自分たちでつくるために・	2008年10月4日~12月7日(3年に1回開催予定)	石川県金沢市	金沢市内19カ所(空ビル、大学構内、街中、美術館など)	金沢21世紀美術館[(財)金沢芸術創造財団]	金沢市に住む一人ひとりが身近な場所、アーティストと一緒に活動することで、自らの可能性を信じ豊かな生活を作り上げてゆく
	カフェ・イン・水戸2008	2002年 2004年に次ぎ3回目	茨城県水戸市	水戸中心市街地(店舗や空き店舗スペースなど)	第23回国民文化祭の一環 (企画運営:財団法人水戸市芸術振興財団+MeToo推進室)	計26名の作家が水戸駅から水戸芸術館までの国道50号を中心に、店舗や空き店舗スペースで展示やイベント、ワークショップを行ない、会期をとおり街中ににぎわいを創出
地域に関係するキュレーター、コーディネーター+住民による組織体	多摩川アートラインプロジェクト	2008年11月1日~9日	東京都大田区	東急多摩川線全7駅(多摩川、沼部、鷯の木、下丸子、武蔵新田、矢口渡、蒲田)、新田神社、田園調布せせらぎ公園等	多摩川アートラインプロジェクト実行委員会(アートディレクター:清水敏男氏)、NPO法人大田まちづくり芸術支援協会(asca)	大田区・多摩川下流域エリアの鉄道(アートライン)・駅(アートステーション)・街(アートタウン)を舞台に、市民と企業で取り組む、現代アートによる街づくりの活動。2008年のテーマは、「グローバル ローカル」
	三河・佐久島アートプラン21	2001年より実施	愛知県幡豆郡一色町	愛知県幡豆郡一色町佐久島内各所	主催:幡豆郡一色町 共催:一色町大字佐久島・島を美しくつくる会 企画・制作:有限会社オフィス・マッチング・モウル	高齢化と過疎化の波が押し寄せる三河湾最大の島、愛知県幡豆郡一色町佐久島。このプロジェクトでは、島の持つ自然や伝統とアートとの出会いによって、佐久島の地域活性化をめざす
	取手アートプロジェクト	1999年より毎年実施	茨城県取手市	取手市内各所	取手アートプロジェクト実行委員会(市民+東京芸大先端芸術表現科+取手市など)	若いアーティストたちの創作発表活動を支援し、市民に広く芸術とふれあう機会を提供することで、取手が文化都市として発展していくことをめざす
	別府現代芸術フェスティバル	2009年4月開催	大分県別府市	別府市内中心市街地のリノベーション空間	NPO法人BEPPIU PROJECT(2004年発足)	別府という場所とアートが出会う多様な事業として、一般市民に対する現代美術を中心とした文化、芸術の振興に関する事業を行ない、いままでとは違うより豊かな市民社会の実現を図る
地域のコーディネーター+住民による組織体	wanakio2008 まちの中のアート展	2008年11月	沖縄県那覇市	商店街(那覇市栄町市場内等)、小学校、ダム周辺等	ワナキオ実行委員会(運営主体:NPO法人前島アートセンター)	アーティストがさまざまな分野と連携し活動することにより、複雑な現代社会に対応できる創造活動を模索しながら現代文化の基礎づくりを試みる
	淡路島アートフェスティバル	2004年より実施	兵庫県淡路島	淡路島内各所(日の出亭・沼島など)	主催:淡路島アートセンター 協力:あるっこ、リゾレッタ 洲本市立州浜中学校美術部	自然豊かな淡路島のフィールドをフルに生かし、アートの垣根を広げ、誰もが関わられるアートの祭りを展開
	はっぴい・はっば・プロジェクト	2004年より実施	宮城県仙台市	仙台の卸町、東北大学植物園、青葉通り、定禅寺通り、一番町四丁目商店街など	NPO法人はっぴい・はっば・プロジェクト	アートを介して人を繋いでいこうと2004年に発足。賛同した普通の市民が活動しています。アートの力で「場」に隠されている価値や魅力を掘り起こしていく
	ながのアートプロジェクト	2004年より実施	長野県長野市	長野市立櫻ヶ岡中学校校内	長野市立櫻ヶ岡中学校 中平千尋(Nプロジェクト実行委員会委員長)	生徒がキッズ学芸員となって美術作家とコラボレーションし、新しいアートのかたちを生み出すように、美術教育を通して、学校をステキなアート空間へ変えさせる活動を進める

資料出典:首都大学東京 システムデザイン学部 准教授 久木元 拓氏が各ウェブサイトより作成

国内アートプロジェクトについての主体/ミッションによるマッピング



久木元 拓氏作成